

## 地域とのかかわりの重要性

社会福祉学部 2年 15FF3149 西村敦

自分はサービスマーケティングで半田市観光協会にお世話になりました。初めに半田市観光協会と聞いて他の障がい者施設や高齢者施設とは違いどこが福祉に関係するのかと疑問に思い、どんなことを行うのか疑問に思い半田市観光協会さんを選択した。

自分たちは、今回半田市で開催されることになった、キャナルナイトという祭りの中で福祉の視点を持って何か行うという事でした。その中で自分たちは足が不自由な人でも楽しんでもらえるように車いすの貸し出しを行うことになりました。今まで車いすに乗る経験もなく、どこでどのような申請をすれば車いすを貸してもらえるのかも知らなかった。半田市観光協会の職員さんに教えてもらい社会福祉協議会で借りることができるという事が分かりました。どんな申請をすればよいかも学ぶことができた。

キャナルナイトに向けて地域のお店の人に宣伝やポスターをおかしてもらったりして地域の人全員で取り組んでいるという事が分かりました。用意から片付けまで地域の色々な人が協力してくれていた。

何か祭りを開催することは地域が密接に関わっていないと難しいのだと思いました。祭りを宣伝しようと様々な職員の方が自ら駅の前や市役所の中でビラ配りをおこなっていて、すごく半田市のことを考えているのだという事を分かった。

祭り当日をは車いすの貸し出しとワークショップを行いました。当日は車いすを借りに来る人はいなかったがワークショップやキャナルナイトはとても大人気で成功してよかったですと感じた。

今回のサービスマーケティングで学んだことは、地域とのかかわりの重要性、自分たちで考えて企画、実行することである。地域とのつながりがなければ祭りや行事を行っていくことは難しいと感じた。

自分は将来社会福祉士の資格を取得し様々な人を援助していきたいと考えている。その中で立場は違うけれど地域と深く、密接に関わっていくことが重要だと学んだ。そして、これ

から就職して仕事をしていく中での積極性やチームワークの大切さも学ぶことができた

。

今の介護施設などは、多職種連携を行っておりチームワークが大切である。そのなかで自分はリーダーをしたりして率先して活動に取り組めた。これまで進んで何かに取り組む姿勢が欠けていたがこの活動を通じてリーダーシップを培うことができたのが一番の成長立ちを感じる。

最後に活動のまとめである。自分は活動を通じてどうすれば地域と良い関係を作っていけるのかとても気になった、将来職に就いてからもそうだが、もっと地域とのかかわりを掘り下げていくと今までと違う視野を広げることができるのだろうと感じた。自分はまだまだ未熟であるがもっと福祉分野を学び将来は地域と密接に関わり利用者のニーズを満たしていけるような社会福祉士になりたいと思った。

## 地域連携の重要性

社会福祉学部 2年 村上ゼミ  
15FF4410 山本綾香

### 1. 活動先について

私は、特定非営利活動法人半田市観光協会で行った。半田市観光協会は、おもてなし力アップを目指して、アイプラザ半田（半田市観光情報発信拠点）と知多半島駅前観光案内所（クラシティ半田）を拠点とし、観光情報の発信や観光催事のコーディネートなどを行っている。

### 2. 活動目標と活動内容

私たちは、自主企画を成功させることや地域連携を知ることが目標として活動を行った。活動内容としては、半田運河で行われた Canal Night という企画の一部として、案内所を設けてワークショップ・車椅子の貸し出し・半田市の観光のPRを行うというものであった。Canal Night とは、半田運河にLEDの玉を約1500個浮かべ幻想的な風景を楽しむミズノヒカリと紙袋にLEDライトを入れたものを半田運河の周辺やJR半田駅から半田運河までの道に並べて作るヒカリノミチを目で見て楽しむという企画である。また、見るだけでなくキッチンカーやタープ出店の飲食店を10店舗ほど用意し、来場者が十分な飲食を楽しめる企画も催された。これは半田市にとっても初めての企画であった。その中で私たちは案内所を運営するために、案内所だとわかる看板を作る作業や半田市社会福祉協議会へ車椅子を借りに行くなど準備を行った。また、半田市社会福祉協議会に行った際には、半田市社会福祉協議会が地域でどのような取り組みをしているのかについて総務グループ長にお話を聞くこともできた。その他にも、職員の方に半田市の観光場所（赤レンガ倉庫やミツカンミュージアム）へ連れて行っていただいております。また、アイプラザ半田で1ヶ月に1度「上を向いて歩こう」など昔の映画が上映されるアイプラザ the シネマの手伝いをした。

### 3. 成果と課題

その結果、当日の2日間案内所を自分たちで運営することができ自主企画を成功させるという目標を達成することができた。また、Canal Night も半田市として初めての企画であったが、老若男女問わず地域の方々がたくさん来場してくれたため、無事成功することができた。地域にある機関の連携に知るとい目標についても、半田市観光協会と半田市社会福祉協議会の連携を始め、半田市内の観光場所や飲食店なども半田市の活性化に積極的に協力していることがわかった。

しかしながら、活動する中で見えた課題もあった。私たちの大きな課題となったことは、自分たちで積極的に取り組む姿勢が足りなかったことである。初めての自主企画だったため、何をどのようにしたら良いのかわからず戸惑ってしまい、職員の指示に頼るという場面が何度もあった。もっと企画までの道筋を明確にして取り組む必要があった。また、チームワークについての考え方も大きな課題となった。活動中に何度も活動先の方からチームワークについて何度も指摘を受けた。チームワークは何事にも不可欠な要素になる。軽視せず、

もっと1人1人が真剣に考えるべきであった。

#### 4. 学び・気づき

そして、私はこれらの夏の活動を通して大きく2つのことを学んだ。1つ目は、向上心の大切さについてである。先述したように、Canal Nightは半田市にとってはじめての取り組みであった。そのため、どの企画も手探りで進めており職員の方も疲労困憊捨て板。しかしその中でも職員の方々は来場者に喜んでもらうために何度も試行錯誤を重ねていた。完成したものに満足せず、より良いものを目指す姿勢は何事においても大切であると学んだ。2つ目は、地域の連携の大切さである。半田市観光協会を始め、Cラボ半田、半田市社会福祉協議会、半田市内の飲食店、ミツカンミュージアム（駐車場を提供）、地域住民であるボランティアの方々、日本福祉大学半田キャンパスの生徒など半田市の多くの人がCanal Nightを成功させるために連携していた。このような地域連携が「まちづくり」に必要であると学んだ。

さらに、後期のゼミ活動で「低機能自閉症の発達における症状と支援方法」をテーマに研究をして、自閉症の子どもの発達における症状や支援方法は特異的で共通するものもあるが、個人によって程度が異なるため、1人1人に合わせた支援を考えていく必要があると学んだ。また、子どもに対する支援だけでなく親子に対する支援を地域単位で行っていく必要があるということも学んだ。夏の活動で半田市社会福祉協議会は子育て支援も取り組んでいると聞いたため、地域単位での支援は地域住民にとって必要なものであるということに改めて気づくことができた。

#### 5. まとめ

以上のサービスマーケティングの活動を通して、実際にNPO法人に訪問し活動することで今まで気づくことができなかつたことに気づくことができ、地域福祉に対する考え方が変わった。それだけでなく、振り返り（事後学習）をすることによって自分の課題も見えた。自分で自分自身の課題に気づくことができたということは、私にとって最大の成長であるように感じる。

今後、サービスマーケティングで学んだことを活かすことはもちろんだが、課題となった積極的に取り組む姿勢とチームワークについての考え方を意識して改善していくことでより成長していきたい。また、もっと多くの知識を講義で身につけ、今後のフィールドワークや実習につなげていきたい。

## 自分の変化

社会福祉学部 社会福祉学科 15FF4501 吉田颯汰

と感じる4月からの1年間の学び、サービ斯拉ーニングで、自分の成長したことは人に任せず積極的に行動していくということである。サービ斯拉ーニングの時の最初の方は自ら行動することができなかったが、後半からは自ら行動していくことができた。サービ斯拉ーニング先で最初は今日のリーダーを決めてといわれてきたときは人任せということが多かったが、後半は自ら行動するということができた。サービ斯拉ーニングでは、祭りの運営をした。そのときの後片付けの時自分達のところが終わった後自ら他のところの片付けにも回ることができた。今までの自分は人任せということが多かったと感じる。だが、そこは成長できたということではないか。そこから自分が全く動けない人間だったということに気付くことができた。そこは将来にも大切なことになってくるであろう。自ら行動しないと見えないこともたくさんあるということに気づいた。サービ斯拉ーニング先では自分を知れたい機会にもなった。

活動を通して地域や市民活動の現状や課題は、私は半田市に住んでいるが、デイサービスや施設はたくさんある。だが、地域の高齢者の集まりなどが私の小さい頃に比べたらどんどん減っていると感じる。このままであれば孤独死ということがどんどん増えていくのではないか。高齢者と小さい子が集まるという地域活動、市民活動をもっと増やして昔の遊びを小さい子にももっと知って遊んでもらうということをしていったほうがいいのか。今の子はスマホ、携帯、ゲームばかりで家から出るという子が減ってきている。そのため市民活動をもっと開きスマホ、ゲームから離れさせるということが大事なのではないか。活動の時も小さい子のほうが全体に比べ少ないと感じた。ある程度はいたが、私達がやった祭りは初めてのことであったので、小さい子が外にでる機会にもなったと感じる。このように新しいこともやっていく必要がある。

活動を通して見えてきた地域のことは、私の住んでる半田市で、半田市の魅力をもっと知ろうと思い半田市観光協会にいった。そこで見えたものは半田にもこんないいものがあったんだとすることができた。また、半田市にも高齢化社会は進んで行っているということを感じた。昔の映画を放送するという時子供は全くこず、半田市観光協会にも来るとしても高齢者だけであったので、高齢化社会が進んで行っていると感じた。

また、半田市に住んでて観光場所はしっていたがどのようなことをやっているかということが知らなかったがたくさんの半田市の観光場所を案内させて頂いてとてもいい場所もあるということを知ることができた。私も半田市はこんな場所だったんだと興味や関心、愛着をもつことができた。今まで半田市なんか何もない。とずっと思っていたが、半田市観光協会にサービ斯拉ーニングで行かせて頂いたおかげで半田市に愛着ができてとてもよい体験ができたと感じる。

このようなことから小さい子があまり家から出ない生活をしている。高齢化社会が進んで

いるということ。半田市に愛着を持てた。ということができた。サービスラーニング先が半田市観光協会でよかったと思える活動ができた。よりよい体験だったと感じる。これからもこのような体験がをしていけたらいいと考える。